

巻頭特別企画

眞城 美春選手 (日テレ・東京ヴェルディベレーザ) インタビュー

「将来、  
バロンドールを獲るのが、  
自分の小さい頃からの夢」

TOKYO FA's Pick Up

ウェルフェアオフィサー

SPECIAL INTERVIEW

第48回全日本U-12サッカー選手権大会 優勝  
東京ヴェルディジュニア 松尾洋監督  
なでしこリーグ2部南葛SC WINGS 松本彰総監督

GAME REPORT

O-30女子サッカー大会関東地区予選大会

REPORT

GK&ストライカートレーニング  
「T-Dreams60 & T・ドリームス50」  
第5回フットボールカンファレンス

「サッカーライフ」

記録員 廣島一平さん



# 私たちは 東京都サッカー協会を 応援しています。


## 初声町和田長浜太陽光発電設備



神奈川県初声町和田(和田長浜海岸側)  
2021年4月  
取得名義:株式会社スカイ・ランド  
(日本水資源開発株式会社関連会社)

人を潤し自然を守る

ECO UP PROJECT

 日本水資源開発株式会社

代表取締役 松永 利明

《東京営業所》

〒142-0063 東京都品川区荏原3丁目2番6号  
TEL 03-3477-2477 FAX 03-3477-7661



# サッカーでの安心・安全、そして子どもたちの笑顔を守る それはサッカーファミリー全員の役割であり責務 ウェルフェアオフィサー

日本サッカー協会とJリーグは、2008年度からサッカー界におけるリスペクトの重要性を認識し、リスペクトプロジェクトを開始しました。このプロジェクトでは、フェアプレーの原点として全力でプレーすることを重視し、仲間や対戦相手、審判、指導者、施設、サポーターなど、サッカーに関わるすべての人々を尊重し大切に思うことを目指しています。

今回は、サッカーを楽しむサッカーファミリーの安心・安全を守り、より快適なサッカー環境を構築する役目を担うウェルフェアオフィサーについて紹介します。

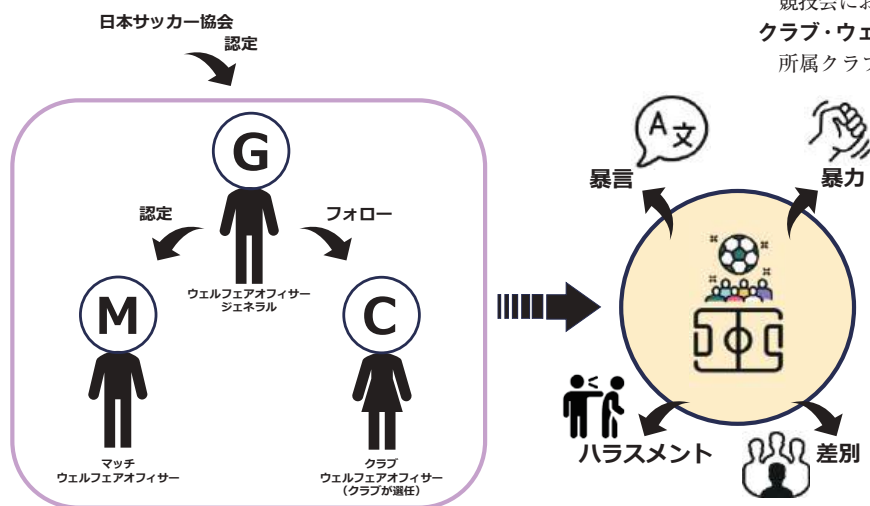


## 「ウェルフェアオフィサー」とは

「ウェルフェア (Welfare)」とは、幸福、快適な生活、福利を意味します。サッカーを心から楽しむためには、安心・安全は大前提であり、ウェルフェアはそれも含めたポジティブな状態ととらえています。

好ましくない行動に対して懲戒罰を与えるのではなく、リーダーとして皆をまきこみ、仲間に気付きを伝えることで、誰もが安心してサッカーを楽しめる環境づくりを推進する担い手です。

各サッカー協会、連盟、競技会、クラブに設置され、サッカーを取り巻く環境の“ウェルフェア”醸成に努め、よりサッカーを楽しむ環境を守るべく活動します。



## 役割

リスペクトやフェアプレーを啓発、促進し、暴力、差別等の予防活動を通じて、問題を未然に防ぐ、また、顕在化した諸問題に対応、問題解決を図ると共に、問題の内容や重大さによって司法機関や諸関連組織への橋渡しとしての役割を担います。

## ウェルフェアオフィサーは3種類

### ウェルフェアオフィサー (ジェネラル) WOG

所属協会や連盟におけるリスペクト周知や啓発、専門組織との連携などを担う。チーフを配置し組織化し、予防、啓発を重視した取組を遂行。

### マッチ・ウェルフェアオフィサー MWO

競技会におけるリスペクトの周知・啓発・暴力・差別予防

### クラブ・ウェルフェアオフィサー CWO

所属クラブでの啓発・クラブ内研修などを開催

東京都サッカー協会登録数は、2,456チーム、選手数97,989名(2025年1月現在)です。各ウェルフェアオフィサーは、WOG58名、MWO2,757名、CWO167名です。

サッカーの健全な発展と普及に欠かせないものであり、ウェルフェアオフィサーの役割は今後もますます重要になっていくでしょう。

CWO向けのセーフガーディングeラーニングをJFAでは無料で公開しています。サッカーファミリーの皆さま、ぜひご覧ください。



## 2024年度 第2回 東京都サッカー協会 WOG 部会議

2025年2月8日に東京体育館内会議室とオンライン形式で開催されました。冒頭に、古賀WOG部長より、JFA暴力等根絶窓口への相談は、全体の80%が育年代で起きていること、予防啓発が何よりも大切であり、焦らず、地道に、継続的に情熱をもって、関わる全員での取り組みが重要という説明がありました。2024年度は、全ての委員会・連盟のWOG選任が整い、次のステップへ進む段階であることが報告されました。

新WOG紹介、2024年度活動報告、2025年度活動予定、2024年度MWO活動紹介等も行われました。



会議の様子

## 日テレ・東京ヴェルディベレーザ 眞城 美春選手インタビュー

# 「バロンドールを獲るのが、 自分の小さい頃からの夢」

日テレ・東京ヴェルディメニーナに所属しながら、昨年はWEリーグ、年代別の日本代表でも大活躍。今年ベレーザにトップ昇格を果たした眞城美春選手に、昨季の振り返り、東京のサッカーガールズへのメッセージも頂いた。



©JFA  
JFA U-18女子サッカーファイナルズ(一番右側)



### WEリーグでは初ゴールを決める活躍

——昨年はWEリーグや年代別代表など、眞城選手にとっても様々なことがあったと思います。

そうですね。昨年、シーズンが始まったときは、ベレーザに参加することが決まっていなかったで、メニーナの選手として一年間活動を終える予定でした。ですので、当初自分が思い描いていた状況とはちょっと違ってしまいましたが、それでも良い年だったと思います。

——高校1年生の時からトップ登録され、高校時代にデビューしたいという思いがあったのでしょうか。

そうですね。高校生のうちにデビューしたいと思っていましたし、その中で結果を残せたらいいなとも考えていました。

——その中でWEリーグカップの大宮戦で公式戦デビューを果たしました。

緊張はあまりなくて、すごいワクワクして、ポジティブな気持ちで試合に臨めました。手応えとしては意外といけるんじゃないかなみたいな感覚がありました。先輩たちがプレーの面で上手で、その点では心配することはなかったで、自分が伸び伸びとプレーが出来れば良いと思い、それができたのでよかったです。

自分はボールを多く受け、ゲームの流れを作ることで、自分も乗っていけるタイプなので、たくさんボールに関わったことは大きかったです。ボールを持ってどんどん仕掛ける瞬間が多く、それがすごく手応えに繋がりました。

——その直後のホームで行われたWEリーグ開幕戦の浦和戦でリーグデビューも飾りました。

私は中学1年生からメニーナで活動していて、ベレーザの試合も見に行っていたので、西が丘でプレーすることが自分の目標でした。そこでプレーができて、すごい楽しかったですし、応援してくれる方がたくさんいて、その歓声を感じながらプレーできたことがすごく楽しかったです。

——2024年最終戦の広島戦では嬉しい初ゴールも決めました。

デビューした時からゴールを決めるチャンスは何度もあったので、そこで決められなくて、ちょっと大丈夫かなと自分自身思っていたところがありました。広島戦は先発ではなくて、前半の途中出場でしたが、その中で入ってすぐに、ファーストプレーぐらいで決められて、喜びよりもびっくりしたゴールでした。でも、ゴールを狙っていたので嬉しかったです。

——前半戦は7試合に出場し、カップ戦を含めれば12試合に出場しました。自分の中での手応えはいかがでしたか。

自分の良さが通用する部分もあると思っていましたが、課題としてプレースピード、フィジカル、守備面があり、自分でもわかっていたつもりでしたが、改めて重要なんだと実感しました。それでも、手応えの方が多く感じられたかなと思います。

自分は味方との連携や、関わりの中で自分の技術を発揮するところが強みだと思っているので、その部分では出せたいと思いますし、自分のオフの動きなどを意識しながら試合に臨んでいたで、その点でも成長できたと感じています。

### U-17日本代表に飛び級で参加。 2024年はキャプテンとして活躍

——代表の話もお伺いします。早い段階から年代別代表にも選ばれ、ひとつ前のU-17W杯も飛び級で参加されましたが、15歳で出た時の印象を聞かせてください。

15歳で出た時はすごく差を感じました。相手は大きいですし、速いですし、海外の選手は、こんな感じなんだと実感しました。その中で自分のプレーができた面もあったんですけど、やっぱりもっと頑張らないといけないと思った大会でした。

——その経験を経て、今回はキャプテンとして臨みました。

前回、15歳で出た時は最年少でしたが、今回は(早生まれのため)最年長として、絶対に年齢的にも自分が引っ張っていかなきゃ



いけないと思いましたし、引っ張っていかねければ勝てないだろうと思っていました。15歳の時と比べて全く違うメンタルで挑んだので、引っ張っていくリーダーシップを意識して取り組んで、そこは、ちょっと成長できたかなと思っています。

——その中で迎えたU-17女子アジアカップでは5試合4得点と活躍しMVPになりました。

大会が始まる前からMVPは狙っていました。それを取れたのはすごく自信にも繋がったんですけど、自分と同じ年の選手や、前回一緒に出た選手はU-20のチームに選ばれていました。自分もU-20でも出たかった気持ちもあったので、絶対に結果を残そうと思っていました。自分がキャプテンとして引っ張っていかなくちゃいけないという中で4ゴールを決めることができました。正直、そんなに取れると思ってなくて、1点取れたらいいかなぐらいに思っていました。その中で点を取ると周りの反応だったり、評価が変わってくることを1番感じた大会で、やっぱり点を取ることは大事なんだなと思いました。結果的に決勝で朝鮮民主主義人民共和国に負けて、すごく差を感じました。朝鮮民主主義人民共和国戦の前まではやりたいこともできましたし、手応えや自信を持って挑んだんですけど、朝鮮民主主義人民共和国はワールドカップも優勝したチームでしたし、差はすごく大きかったです。その差を埋めたいと思った大会でした。

(個人としても)全体を通して点は取りましたけど、自分のプレーを全部出せたわけでもなくて、点を取れただけだという部分がありました。自分が思う最高値じゃないんですけど、その中でチームの勝利のためならポジティブに戦おうと思っていたので、ゴールを取れたのが救いだったかなと思います。

——U-17W杯も振り返ってください。



正直、あまり自分たちが戦った相手とは差は感じなくて、意外とできるということはありません。あと1歩の差、そんなに差はないんですけど、そのちょっとの差がありました。最後のイングランド戦は先制して追いつかれて、入れて最後にまた追いつかれてPKで負けた感じ

だったんですけど、その最後の差は大きいと思いましたし、そこを埋めていかないと世界一は遠いのかなと思ってしまいました。イングランド戦は特に自分たちがボール持って、相手を動かすという自分の理想に近いサッカーが前半はできました。そこから相手の圧があって、フィジカルの部分で押されて、だんだん相手のペースになって追いつかれてPKに持ち込まれてしまいました。前半は良いとして、後半まで持つ体力、フィジカルの部分と、最後どうやって試合を終わらせるかという部分、そういう詰めの甘さが出たと思うので、そういうフィジカルの部分はもちろん足りないと思いますし、そういう賢さ、その試合をどうやってコントロールするかという部分が足りなかったかなと思います。

(個人としてはグループリーグ最終戦の)ザンビア戦で2ゴールを決めました。その試合も大事なんですけど、1番大事な試合では決められていないので、やっぱり大事な試合で大事な時に決められる選手になりたいなと思いました。

## メニーナでは全日本U-18で日本一に

——ベレーザとしての活動が多かったですが、メニーナとしても1月の全日本U-18で日本一となり、有終の美で終えました。

冬の全国大会には出られると。そこはやっぱり絶対に優勝するという思いでした。みんなとサッカーができる最後の大会だったので、絶対に獲りたいという強い思いはありました。その中で最後に仲間たちと喜べてもう後悔はないです。やりきりました。

——今年トップ昇格を決められて、プロサッカー選手としての人生が始まります。

自分は中1からやってきて、他のチームでサッカーすることはあまり想像できないぐらい、このチームでプレーしたいと思っていましたので、昇格ができて嬉しいです。



もうプロになるということで、今まではユースの大会に出ていたりしていたんですけど、プロは結果が大事で、応援してくださってる方に良い結果を見せなくちゃいけないと思っています。そういう覚悟は、もう1回、気を引き締めてやっていきたいと思うのと、ベレーザはなかなか最近タイトルを獲れていません。そういう部分では絶対にタイトルを獲りたいと思いますし、自分が貢献してタイトルを獲るのが1番だと思うので、そういう部分ではしっかり結果にこだわってやっていきたいなと思います。

## 自分らしさを忘れずにプレーしてほしい

——東京のサッカーガールズへメッセージをいただけますか。

自分はいろいろ憧れの選手がいて、その憧れの選手と一緒にサッカーする、追いつきたい、そういうプレーがしたいとか、いろいろな思いを持ってプレーをしてきました。そういう憧れの選手を持つことは大切だと思いますが、やっぱり自分らしさを忘れないでほしいです。自分にしかできないことが、きっとあると思うので、そういうプレーに自信を持って、憧れの選手の良いところも盗みながら、自分にしかない部分を大切にしてほしいと思います。

——今後の目標、展望を聞かせてください。

将来、パロンドールを獲るのが、自分の小さい頃からの夢なので、その夢を叶えるために、先を見ずぎず、まずはベレーザでタイトルを獲るところから1歩ずつステップアップできたらいいなと思っています。

## 2024-25 SOMPO WE リーグ ベレーザホームゲーム

16節	3/29 (土)	15:00 kick off 味の素フィールド西が丘 vs セレッソ大阪ヤンマーレディース
17節	4/12 (土)	17:00 kick off 味の素フィールド西が丘 vs サンフレッチェ広島レジーナ
19節	4/27 (日)	15:00 kick off 味の素フィールド西が丘 vs ちふれASエルフェン埼玉
20節	5/4 (日)	15:00 kick off 味の素フィールド西が丘 vs INAC神戸レオネッサ
22節	5/17 (土)	14:00 kick off 味の素フィールド西が丘 vs ジェフユナイテッド市原・千葉レディース

## PROFILE

### 眞城 美春 (Miharu SHINJO) 選手



2007年2月5日生まれ、東京都大田区出身。大田クラブでサッカーを始めて、パティSC、日テレ・東京ヴェルディメニーナでプレー。2024年9月1日に行われたWEリーグ クラシエカップの大宮アルディージャ VENTUS戦でプロリーグ公式戦初出場を果たし、2025年2月にトップ昇格が発表された。14歳でU-16日本代表に飛び級招集。AFC U17女子アジアカップ2024ではU-17日本女子代表のキャプテンとして全5試合に出場し、通算4得点を挙げて大会最優秀選手にも選出された。ポジションはMF。



# 17年ぶり4度目の日本一に JFA 第48回全日本U-12サッカー選手権大会 東京ヴェルディジュニア 松尾洋監督インタビュー

JFA 第48回全日本U-12サッカー選手権大会の決勝が2024年12月29日(日)に鹿児島県の白波スタジアムで行われ、東京ヴェルディジュニアがバディーSC(神奈川県)に延長戦の末に3-2で勝利し、日本一に輝いた。東京ヴェルディの優勝は17年ぶり4度目(前身の読売SC時代を含む)。また、8人制になってからは初のタイトル獲得となった。今回は、優勝を果たした東京ヴェルディジュニアの松尾洋監督に話を聞いた。

(取材日 2025年1月)

## 明るく、活発な雰囲気は優勝の原動力に

——全日本U-12選手権優勝おめでとうございます。

ありがとうございます。今の高校2年生(4月から3年生)の代の時に、全国に行っていて、その時はベスト16で大阪のチームに敗れてしまって悔しい想いもしていたので、そこは絶対に超えたいと思っていました。選手たちには「楽しみながらやっつけよう」「とにかく楽しもう」ということを伝えて、その結果、一番最後に残っていたらいいよねという話をしていたので、それが実際に叶って良かったです。

——大会を振り返っていただけますか。

全国大会は、各都道府県を勝ち上がってきたチームなので、楽な試合はないとは思っていましたが、初戦(アミティエSC草津/滋賀県)から相手の守備の粘りだったり、キーパーの守備範囲の広さだったり、そういうところで苦戦して0-0で終わってしまっ、いきなり追い込まれて、やっぱり厳しいなという印象でした。

ただ2戦目(MIYAZAKIフェニックスFC/宮崎県)で6得点入ったことで、みんなの気持ちが楽になり、本来の調子がこの試合から出てきた印象です。次の山雅(松本山雅FC U-12/長野県)戦も勝たないと決勝トーナメントが厳しくなる試合だったので、なんとしても勝ちにフォーカスして、5得点を取り勝てたのは決勝トーナメントに向けて弾みがついたかなと思います。

——決勝はバディーSC(神奈川県)との関東勢対決でした。

ワールドチャレンジの準決勝で、PK戦で敗れた相手で、みんながあの時の借りを返そうという思いがあったと思います。その気持ちがあったからこそ「絶対、次は勝とう」と挑んだのだと思います。試合終了間際にハンドでPKを取られて同点に追いつかれてしまいましたが、その後「気持ちを切り替えよう」「あと10分、決勝の時間を楽しめるぞ」と言って送り出しました。

——その中で延長前半3分、都予選決勝でもチームを優勝に導くゴールを決めた5年生の間璃月選手が決勝点を決めました。

年間を通してチームの中心でやっていたところもあるし、ポジションに関しても中盤の真ん中をやらせているので、戦術的にも優れており、相手の動きや状況をしっかりと把握できています。どこから攻めればいいのかみたいなサッカーIQが高い選手です。東京都の決勝もそうですし、この全国の決勝でもペナルティエリア内のところにずっと入って行って、こぼれ球だったり、そうした局面に対する嗅覚というか、そういう部分を読み取れる選手かなと思います。

——改めて、日本一になれた1番の要因はどこだったのでしょうか。



「勝負に勝つ代は、意見が言える選手が多かったり、勝ちたいという気持ち強い選手が多い」と語る松尾洋監督

今年のチームは、みんな性格が明るいというか、ピッチ内も、ピッチ外もすごい陽気。明るくて、みんなコミュニケーションが活発なので、ハーフタイムも意見交換が盛んに行われていて、決勝戦でも本当に僕が話す暇がないぐらい、みんなで話していました。最後にロッカーアウトのブザーが鳴って、もう出ます



17年ぶりに全日本U-12サッカー選手権を制覇した東京ヴェルディジュニア

という時に、一言だけ良い?と言ったぐらいです(笑)。僕が話すこともなくて、一言だけ「もう一個頑張ろう」「行ってこい」と言ったぐらいでした。それぐらい良い雰囲気でしたし、あるべき姿、理想の姿というか、みんなが勝ちたい気持ちをぶつけ合っていていたのかなと思いました。5年前の全国に行った代も、ちょっと似たような雰囲気はありました。やっぱり強かったり、勝負で勝ったりする代は、純粋にそういうところの意見が言える選手が多かったり、勝ちたいという気持ち強い選手が多いと思います。

## 自分の武器、良さを発揮できることを意識した指導

——指導する上で大事にされているところを教えてください。

まずは楽しみながら、自分の良さ、自分の武器、そういうところをピッチ上で思いっきり出せるようなチームを作りたいと思ってやっています。型にはめるとかではなく、1人1人の良さが引き出されるようなアプローチをしていければと常に心がけています。



チームヴェルディで日本一に導いた

あとはヴェルディというクラブの特徴として、圧倒的なテクニックだったり、技術だったり、基礎的な部分をしっかりと教えていけないといけませんし、4種の年代はそれが1番重要で、次のジュニアユースやユース、そしてトップチームに繋がる部分でもあります。その点をよく考えて日頃アプローチはしているつもりです。

——今後のビジョンを教えてください。

自分が携わった選手が1人でも多く、トップチームや代表などで活躍する姿を見られるってところが1番のやりがいですので、たくさんの選手がそうした舞台に立ってほしいと思います。

——今季はアカデミーサブダイレクター 兼 ユースIDPコーチ 兼 スカウト、またU-15の東京都トレセンコーチも担当されます。

長く4種を見てきましたので、環境を変えて新しいチャレンジをすることで、自分の指導者としての経験をさらに増やし、プラスしていきたいと考えています。また、トレセン活動に関しては、東京全体のレベルアップや盛り上げのために、これまでの経験を活かして何か刺激を与えたり、力になれるよう頑張りたいと思います。

## PROFILE

### 松尾 洋 (Yo MATSUO)



大阪府出身。ガンバ大阪JY→ガンバ大阪Y→神奈川大。一般企業に就職の後、アフリカや、イギリス、カナダでも指導。2012年に東京Vの強化部入りし、翌13年からジュニア担当。今季からアカデミーサブダイレクター 兼 ユースIDPコーチ 兼 スカウト。



# 相乗効果を狙った育成事業初の取り組み 「GK & ストライカートレーニング」



GK &amp; ストライカートレーニングに参加した40名の選手たち



ゴールを決めることに特化したトレーニング

「GK & ストライカートレーニング」が2024年10月1日、駒沢オリンピック公園補助競技場にて開催された。GKとストライカーが互いに高いレベルを経験し、相乗効果を狙った育成事業初の取り組みとなった。U-14年代の各地域トレセンから選抜されたGK 8名、ストライカー 20名、ディフェンダー 12名の計40名が参加した。

初開催ということもあり、開始前には各コーチが入念に準備とトレーニングの確認。「ゴールを決める」「ゴールを守る」というサッカーの根源的な部分に特化し、約2時間にわたってトレーニングが行われた。

## トレーニングの内容

トレーニングは、20名ずつ（GK4名、ストライカー10名、ディフェンダー6名）のA・Bの2グループに分けて実施。また、GKのゲストコーチとして藤原寿徳コーチ（FC東京／現ヴィッセル神戸）、山下渉太コーチ（FC東京）、山岸範宏コーチ（JFAナショナルコーチングスタッフ／現U-17代表）が指導にあたった。



自らお手本を見せる山岸範宏コーチ

ストライカーは「ゴールを決める」「シュートを打つ」にフォーカスし、常にゴールを狙う姿勢や、ゴールおよびGKを注視することの重要性を強調。一瞬たりともゴールから目を離さないことをキーワードに、シュートテクニックや素早くマークを外す動きをトレーニングした。その中で特に徹底されたのは、「シュートを外すことは決してミスではない」という考え方。正確性を求めるあまりシュートチャンスを逃すことや、ゴールから遠ざかるプレーを「ミス」とし、コーチが声をかけながら指導した。

GKは「失点しない」「シュートを止める」「シュートを打たせない」ことをテーマに設定。相手の状況を常に把握しながらゴールを守ること、シュートを打たれる位置の予測、プレーの準備、DFとの連携をチェックした。ここでは、シュートに対してプレーできなかったことを「悪いプレー」とし、理想的な準備ができていなくても対応すること、弾いたボールへのリカバリー、正しいスタートポジションの確保、その場に応じた適切なテクニックの選択を基準とした。

## 実戦形式のトレーニング

ドリルによる反復トレーニング後は、GKも加えたワンウェイの2対1、3対2のトレーニングを行い、最後は5対5、7対7のゲームを実施。選手たちはこの日身につけた技術や判断をフルに活かしながら、ゲーム形式のトレーニングに取り組んだ。ストライカーは「ゴールを決めるために」、GKは「ゴールを守るために」というテーマを実践し、攻守にわたって奮闘した。

中田康人技術委員長は「参加した選手たちが非常に一生懸命取り組んでくれた。今回は、選手がシュートを打つ、止める、守る機会を増やすこと



シュートを止める姿勢も確認した

を目的とし、スタッフ間でも『Doの確保』を第一に考えた。その点がしっかりと実践できたのは良かった」と、第1回の開催を振り返った。

山岸コーチは「今日感じたこと、教えられたことを必ずメモしてください。『楽しかった』だけで終わってしまうのはもったいない。それをそれぞれのチームに持ち帰り、継続して取り組むことが重要です。そしていつか、『あの選手を代表に呼びましょう』『東京都出身ですよ』『あの選手、俺あそこで見ましたよ』と言える日を楽しみにしています」と選手たちにエールを送った。



ゴールをしっかり見て、シュートを打つ



シュートをしっかりと止める

## COMMENT

### FW 岡部 歩 (国分寺FA)

「ゴール前の動き出しや、ゴールにつながるプレーを意識したトレーニングができ、自分の成長につながりました。ゴール前では常にシュートを打つことを最優先し、ゴールを狙う意識が変わりました。自分が経験したことのない高いレベルで、非常に強度の高いトレーニングができたので、これからの経験にも活かしていきたいです。また、チームに持ち帰り、今日学んだことを実践していきたいです。」

### GK 和田 蒼生 (インテリオールFC)

「チームではGKコーチと練習する機会が少なく、今回のトレーニングはとても面白かったです。コーチからはポジションの取り方や、構えたときの手の位置、構えのフォームを修正していただきました。自分は手の位置が少し後ろになっていて、無駄な予備動作がありました。それを改善したことで、これまで止められなかったボールにも対応できるようになりました。」

### FW 横山 悠 (FCトッカーノU15)

「今日はコーチから、キーパーの位置を見てシュートを打つことを教わりました。クロスボールが上がって、キーパーが弾いたこぼれ球を決めることができたのも、キーパーの位置を意識していたからです。キーパーの動きを見ることで、ボールも自然と視界に入り、決めることができました。キーパーを見ることで、センターバックや寄せてくる相手も視野に入り、かわしてシュートを打つことができると実感しました。」





# 2025 シーズンから、なでしこリーグ 2 部参入 南葛 SC WINGS 松本彰総監督インタビュー

葛飾区を拠点に活動する関東女子サッカーリーグ 1 部の「南葛 SC WINGS」が「2024 プレナスなでしこリーグ 2 部入替戦予選大会」を戦い、2014 年の創立後、6 度目の挑戦で昇格を果たして、2025 シーズンのなでしこリーグ 2 部への参入が決定した。就任一年目で昇格に導いた、松本総監督に話を聞いた。



9月22日 入替戦予選大会社行式



11月9日 昇格決定後の集合写真

## ホームの雰囲気を作ったファン・サポーターの声援が力に

——改めまして、なでしこ2部参入おめでとうございます。松本総監督としても就任1年目での昇格となりました。



ありがとうございます。このクラブに来るにあたって、周りの方々、ファン・サポーター、パートナー企業の方と葛飾区、東京都民、いろいろな方の想いがあることをとても感じました。その方たちに喜んでもらう、WINGSの活躍、試合を見て楽しんでもらう、勝利を一緒に喜んでいくということができたのかなと思っています。

あとは昨年が昇格という年にはなりましたが、それまでの過去10年間、WINGSのために、WINGSで活躍していた選手たちもいることを教えてもらっていて、実際にJヴィレッジの入替戦予選大会の際には、毎日モチベーションビデオを見ました。選手たちのスライドを入れながら、またコーチの山崎小百合さんが過去の選手たちにも連絡を取ってくれて、過去在籍した選手のメッセージや、応援の動画も入れながら選手たちに見せて、「いままでWINGSを支えてくれた選手たちと一緒にやろう」と伝えて、それを感じながら戦えたと思います。

——入替戦はつばFCレディースとの試合でした。

本当に彼女たちが自分たちの力で掴み取った舞台でしたので、彼女たちが一番楽しく戦える環境を最後2日間どう持つていか、僕たちが何かしたというよりは、彼女たちが一番パフォーマンスが出せる状況を作れたかなと思います。

ホーム(2-0)でアドバンテージを取れたことはもちろん精神的にも、戦い方としても優位だったかなと思います。ただ、2試合目に向けて、その1試合目のアドバンテージはないよ話をし、点数計算をして、算数で勝つんじゃないかと、あくまでも2つ勝って、完全な昇格を決めようというのは、2試合目の最初のミーティングの時に話をしました。

——見事2勝して、昇格権を獲得した瞬間はいかがでしたか。

ホッとしたということが一番ですかね。あとはちょうどベンチ側から選手たちがピッチで戦っていて、その奥がサポーターさんたちの姿だったので、試合が終わった時の選手たちと喜ぶ奥のファン・サポーターの方々の姿は、なんかすごく本当に彼女たちがまず努力して勝ち取ったものであると同時に、支えてくれた人たちが一緒に喜んでくれる姿というのは感慨深いものがあったかなと思います。

——サポーターの方々も多く駆けつけたと聞いています。

(予選大会も含め)ホームの葛飾でやっているのと同じか、本当にそれ以上の声援をいただいて、Jヴィレッジももちろんですし、つばでの試合も本当にもうWINGSのホームの雰囲気を作ってくれた。ファン・サポーターの方の想いが彼女たちの力になったと思います。

——フラッグもすごいですね。

これは去年9月にホーム開催の男子の公式戦があり、その数日後に予選大会への出発を控えていて、急遽ブースを作って、WINGSの選手たちが立って、来た方に一言ずつ書いていただいたんです。予選大会や入替戦では力をいただきました。



予選大会や入替戦に向けて、フラッグに寄せ書きを募り、これだけの数に

## 女子サッカーで面白いサッカーを表現したい

——なでしこリーグ元年に向けての意気込みは。

普段通りの自分たちの姿を出すこと、その自分たちの姿をより高めていくということに尽きるかなと思っています。風間八宏ダイレクターが提唱している「技術の6項目」をどれだけこだわって追求できるか。その身につけた技術を良い距離感でサッカーができると、本当に相手を圧倒するようなプレーを彼女たちは発揮しますので、そういった部分を女子サッカーで、面白いサッカーを表現したいというのがひとつ。あとはいままで競技歴として、たくさんサッカーを重ねてきた選手たちですが、過去の、今までの自分よりも今の自分が1番上手いんだと、「自分史上最強の選手になる」という、2つを選手たちには今年最初のミーティングで伝えました。

——今後のWINGSとしての展望を教えてください。

まずは選手がどれだけ上手くなれるかのチャレンジだと思うので、今の自分たちに満足しないこと。もちろん昇格に満足している選手はひとりもいないので、もう次の目標、自分がかまくなること、自分史上最強になること、この女子サッカーの中で面白いサッカーを表現してどれだけ向かえるかだと思います。



たくさんの人の想いが込められたフラッグ

アカデミーから今季、U-18から2名昇格という形でトップチームに上がることになりました。特に今年は引退した永木真理子という選手がアカデミーのU-15の監督という立場になりまして、そういった意味では、よりトップチームとアカデミーの一貫性、共通部分が強まるかなと思っています。

——最後にサポーターの方々メッセージをお願いします。

下町、葛飾ですごく人情味のある温かい方たちなので、そういう方たちに喜んでもらえるように、まずは自分たちがサッカーを楽しむこと、そして欲を言えば、もちろん勝ちを届けるわけですけれども、勝ち負けに左右されるチームではなく、「WINGSだから応援する」「彼女たちだから応援する」と言ってもらえることが一番なので、そういう自分たちの姿を楽しんでもらえるように、これからもやっていきたいと思っています。



9月22日 入替戦予選大会社行式

## PROFILE

### 松本 彰 (まつもと あきら)

栃木県出身。2018年からトラウマトレーニングコーチ、トラウマトレーニング栃木代表、TRAUM SVレディースU-12監督、ジャパンスペシャルトレーニング栃木地域統括、TRAUM SVレディースU-15監督を経て、2024年南葛SC WINGSの監督、2025年から南葛SC WINGSの総監督に就任。





# SOCIOS.FC VENGA が優勝し、全国大会の切符を掴む

## 第36回関東レディースサッカー大会（兼）

### JFA 第36回全日本0-30女子サッカー大会関東地区予選



SOCIOS.FC VENGA



小平サッカークラブ



東京アルテミスSC

2024年11月16日、17日に清瀬山運動公園サッカー場で行われ、東京都からは3チームが出場。SOCIOS.FC VENGAが全国大会への切符を掴んだ。関東各地から強豪チームが集い、熱戦が繰り広げられた本大会は、全国大会出場をかけた戦いに、各チームのプライドがぶつかり合った。SOCIOS.FC VENGAは昨年に続き全国大会出場を決めたが、決して楽な道のりではなかった。準決勝、決勝ともに厳しい試合となり、勝ち抜くためのチームの結束力が試された。女性審判が主審を務める試合も多く見られ、競技の発展だけでなく、女性の審判育成にも注目が集まった。

#### 小平サッカークラブ、初戦突破も全国への道届かず



2014年、2017年と2度の全国準優勝を誇る小平サッカークラブは、1回戦でオール茨城（茨城）と対戦。2分、FW鈴木さくらが鋭いターンからのシュートでネットを揺らすと、6分には鈴木のカrossからDF小野未優がヘディングで追加点。後半もFW泉美幸が決めるなど、3-1で勝利を取めた。全国大会出場をかけた2回戦では、前

年度全国3位のFC楓昂 Lifelong（埼玉）に後半はゴールに迫る姿勢を見せ、シュート本数では上回ったが、0-2に敗れた。

3-0で折り返す。後半は相手が布陣を変更し、後ろに人数をかけてきたため得点を奪えなかったが、ゴールに迫り続け、50分にコーナーキックのこぼれ球を拾った松本がエリア内で技術を見せてゴールを決め、4-0で勝利。3大会連続の全国大会出場を決めた。

#### 全国大会への意気込み

UILANI FC（埼玉）で2019年に日本一、小平で2度の準優勝を経験している頼れるエースで主将の坂下は「準備の段階が一番大変で、人数もギリギリでしたけど、難しい初戦を突破できて良かった」と、全国大会出場を決め、胸をなで下ろした。

SOCIOS.FC VENGAは翌日の準決勝で大和シルフィード98（神奈川）に2-1で競り勝ち、決勝ではHFCレディース（神奈川）に6-0と快勝して優勝。全国大会には関東覇者として臨む。一昨年、昨年と予選ラウンドでいずれもその後日本一になったシュペーニ大阪（大阪）に敗れ、1位トーナメント進出を逃しているだけに、今年を超えたい壁だ。

坂下主将は「2年連続優勝したチームにリーグで負けて下位グループになっているので、そういうチームと上位グループで戦いたい」と全国大会でのリベンジを誓った。



優勝したSOCIOS.FC VENGA

#### 東京アルテミスSC、粘りの戦いも初戦敗退



2012年に全国優勝を経験している東京アルテミスSCは、1回戦でFOOT CRUSADERS（千葉）に0-1で敗れたが、最後まで戦い抜いた。22分に失点したものの、その後は終盤まで最少失点で耐えながら粘り強く戦い、前線から懸命にボールを追った。

#### SOCIOS.FC VENGA、関東制覇で全国へ



昨年も全国大会に出場したSOCIOS.FC VENGAは、2回戦からの登場でセレソ宇都宮SC（栃木）と対戦。5分、流れるようなパスワークからMF山崎小百合の浮き球のパスをFW坂下亜実主将が胸トラップで取め、左足で流し込んで先制した。

「シンプルにゴールを狙いたかったので、前に攻撃的な選手を入れて、サイドからキックができる布陣にした。もうシンプルに『ゴールだぞ』っていうサッカーをしようと思いました」と坂下は話した。

その後も右MF鈴江紗希、左MF庵原碧がサイドで果敢に仕掛け、クロスから坂下やMF松本あゆみがシュートを狙う。15分には左SB新井梨恵のクロスから松本がヘディングで決めて追加点。さらに19分には鈴江が決めて

#### 女性審判の活躍と今後の展望



2級審判の齋藤まさみ主審

また、今大会では多くの試合を女性の主審が務めた。サッカー2級審判を持つ齋藤まさみさんは「東京の女性審判員はとても多いです。今回は関東が主管となる関東大会なので、その中でも割り当てていただいたことに感謝しながら、自分の仕事を全うしようと思っていました。意識の高い審判員も多く、お互いに普段から切磋琢磨しています」と語る。

大会運営に当たった高校部会の原山和也氏は「(女性審判が)増えてきている証拠ですし、目指すところは(4審、副審も含めて)すべて女性で運営できること。それがひとつの目標になるのではないかと思います」と述べた。今後も競技の発展だけでなく、女性審判の育成にも力を注いでいく方針だ。





## 帝京高校 OB を中心に結成されたチーム

# 「T-Dreams60」「T・ドリームス50」

チームの頭文字となる「T」は、高校サッカーの名門・帝京高校のOBを中心に結成されたチーム名が由来である。O-40、O-50、O-60の三世代に分かれ、シニアリーグの各カテゴリーで活躍。2024年にはO-60とO-50の両カテゴリーが全国大会で日本一に輝いた。チームの活動や今年の目標を関係者に伺った。



T-Dreams60の選手たち



T・ドリームス50の選手たち

### T-Dreams60

#### 帝京高校OBのサッカー熱が高まり、チーム結成へ

全国高校サッカー選手権6度の優勝を誇る帝京高校。カナリア軍団と呼ばれ、黄色いユニフォームに憧れたサッカー少年は数知れない。その強豪帝京高校出身者を中心に構成され、東京都シニアサッカー連盟に所属するのがT-Dreams60だ。

OBの間でシニアサッカーへの熱が高まり「東京では帝京が一番だ」という思いから、シニアでも全国制覇をしよう」という流れで選手が集まり、創設されたという。そして、当時のOB会長が「帝京」の「夢」という思いを込め、T-Dreamsというチーム名を付けた。

現在T-Dreams60には23名が所属しており、OBだけではなくサッカー好きのメンバーが週末に集まりトレーニングを重ねている。その活動歴は約25年に及び、昨年6月上旬に行われた全日本O-60サッカー大会では、一次リーグから決勝まで攻撃力が爆発し見事初優勝を飾った。



走ることを意識してプレー

取材に訪れた1月下旬は日差しも届かず北風が吹く極寒のなか、ピッチを駆け回る選手たちの姿があった。2月中旬から始まる全日本Over60サッカー大会東京予選に向け、ライバルチームと練習試合を行っていた。チームの特長は、ボールを保持して主体的にプレーすることだが、とにかく走る、走る！帝京高校が選手権初優勝したときに10番を背負っていた鈴木史高代表は「私の人生の中でサッカーを裏切っただけだ」と話している。健康である限り、懸命にプレーしていきたいですね」と話す。平日はそれぞれが仕事をし、週末に集まり1つのボールを追いかける。プレーの根底にあるのは「サッカーを楽しむこと」、「勝利」、そして「周りの人が立ち止まり、見入るようなワクワクするサッカーをすることだ」という。

これから全国予選やシニアリーグもスタートし、11月まで公式戦が続く。「幾つになってもサッカーを続けていきたい。家に籠っているよりは全然いいですし、メンバーとプレーすることで気持ちも若くなる。若い人の言葉を聞いてプラスになることもあります」と話し、再びピッチに足を踏み入れた。

脈々と受け継がれる帝京魂を背負い、黄色のユニフォームに身を包んだ選手たちは、これからもサッカーと向き合い続けていこう。



楽しみ、勝利を目指す

### T・ドリームス50

#### 強さの秘訣は「フォア・ザ・チーム」

ここまで全日本O-50サッカー大会で2度頂点（2022年、2024年）に立ったT・ドリームス50は、シニアリーグで強豪の地位を確立している。帝京OBを中心に38名が所属し、1つ下のシニアカテゴリーであるT・ドリームス40から選手が加入してくることも多い。また、しばらくサッカーから離れていたが帝京の先輩や友人から誘われてスパイクを履いてプレーする選手も多く、年齢を重ねてもサッカーができる場があることに感謝している選手も少なくない。またメンバー同士の年が近いことや雰囲気が良いことから入部希望者もいるという。

チームの強さの秘訣は「フォア・ザ・チーム」にある。ミスが起きても全員でカバーし、ミスをミスにしないという姿勢だ。広報担当の増田真一さんは「私はTドリが好き。時には厳しいことを言う人もいますが人たらしが多い（笑）。言い合えますし、理解し合える、そこが一番です」と話す。サッカーのプレー以外に大事にしているものもある。「T・ドリームス50のユニフォームのエンブレムには、チームスローガンである“リスペクト”“謙虚”“エンジョイ”の英語表記が刻まれています。味方はもちろん対戦相手や審判に対しても欠かさず、その姿勢を見せることがチームの魅力であり、プレー以上に大切にしているところですよ」。

平日はビジネスパーソン、週末はサッカー選手。サッカーが仕事の刺激になったり、仕事がサッカーの刺激となることもある。ただし核の部分には「好きな仲間とサッカーをする喜びがある」という。木村裕之主将は「ここは大人の真剣な遊び場です。本気でやるから楽しい。各々が少しでも成長し上手くなろうと集まっています」と話す。まさに大人の週末部活そのものである。「これから一生懸命に真剣に遊んでいきたいですね」と続けた。



フォア・ザ・チームの意識でプレー



エンジョイする気持ちも忘れず

#### COMMENT

##### T-Dreams60 坂木 嘉和監督

現在、帝京OBは10名ほどです。蹴って走るではなく、しっかりつないでいくサッカーをやりたいという選手が集まっていて、昔、やりきれなかった、高校時代にもう少しやりたかったという選手が頑張っています。メンバーの力を合わせて二度目の全国優勝を目指したいと思っています。



#### COMMENT

##### T・ドリームス50 木村 裕之主将

帝京OBを中心に、サッカー好きなメンバーが集まっています。平日は仕事を頑張って、週末に練習や練習試合をして気分良く1週間頑張れる人も多いチームは「リスペクト、謙虚、エンジョイ」を掲げています。今日より明日が上手くなる、その繰り返して各々が、これからも成長をしていきたいと思っています。





# TOKYO 発世界へ 一次への扉

## 第5回フットボールカンファレンス

TOKYO 発 世界へを key word に JFA そして東京 FA の取組みを発信共有し飛躍に繋げる。TOKYO 発世界へ「次への扉」をテーマに、2025年1月26日駒込中学校・高等学校の勤学ホールで開催された。事前に申込された100名を超える指導者が出席し、4名の登壇者により講演が行われた。



オープニングでは、中田康人技術委員長より、技術委員会のモットーについて説明があった。それは「四位一体」であり、「強化」「普及」「育成」の3つが基本となり、その中央に「指導者養成」が位置し、本日出席されている皆さんこそ、その重要な役割を担っている方々である。また、ロードマップのテーマは「Happy Life with Football in TOKYO」。2024年には、暑熱環境に配慮し、サッカー活動を慎重に行うことを提案し、2025年度の夏の取り組みは次のステップへの扉として、サッカーに関わるすべての人々を守るために、暑い夏だからこそ、楽しくサッカーをみんなで続けていきたいと思いますというメッセージが伝えられた。

### 城 和憲 (JFA ユース育成ダイレクター) テーマ「日本の育成の進む道」

冒頭、JFAの育成は、「2005年宣言」に基づき(2005年までにWC開催、世界一)活動していることが説明された。育成ダイレクターの立場から、映像、データ、指導者や選手のインタビューを交え、「Japan's Way」の考え方が紹介された。

また、世界一になるためには、これまで以上にフットボールカルチャーを創造する必要がある。そのためには、競技レベル向上のピラミッドのみではなく、普及や楽しむ要素を含めたダブルピラミッド型の考え方が求められる。多くの人がサッカーに興味を持ち、関わる仕組みづくりが重要とされている。育成年代の指導では、「プレーの原則」を身に付けることを目指している。「プレーの原則」とは、チームがさまざまな戦術的状況下で効果的に適応するための基本戦略である。育成選手が大人になった際、チームを勝利に導くスキルや個人戦術の習得を目指し、自らの責任でチャレンジできる選手を育成しようという話があった。

最後に、本カンファレンスのテーマにもあるように、次のステージへ進むためには指導者が鍵となる。実際に日々選手を育成しているのは指導者の皆様である。2005年宣言に掲げた世界一の実現には、指導者の力を結集し、より大きな力へと変えていくことが必要。子どもたちのために、一緒に頑張っていきたいという力強いメッセージが贈られた。

### 三村 郁斗 (麻布高等学校サッカー部員) テーマ「ユースレフェリーの活躍する未来」

選手であり、ユースレフェリーでも活躍する三村氏は、審判委員会と高体連サッカー専門部の取組みを紹介した。そして、なぜユースレフェリーを育成するのかについては、審判委員会のビジョン2030にあるトップ審判員の輩出がきっかけになっていることが説明された。実際に自身が活動する中で、選手活動をしながら審判することは、選手の気持ちが変わる、プレーを理解することができる、スタミナやスプリント力もある、審判活動を通して選手への還元、審判活動における競技規則の把握、フェアプレーの促進、審判員は22名の選手の外に唯一フィールドに立ち目の前でプレーを見ることができるといったメリットが挙げられた。また、自分の活動を通して、ユースレフェリーの存在を知ってもらいたいという強い思いが語られた。また、ユースレフェリーの技術の底上げと選手への普及活動について出席している指導者へ協力のお願いがあった。

最後に、選手をしながらユースレフェリーの活動をする世界を当たり前にし、東京から世界へ自身が成長することで、クリーンで楽しいサッカーの環境を提供して次への扉を開きたいという思いが伝えられた。

### 安松 幹展 (JFA フィジカルプロジェクト/立教大学/東京 FA チューター) テーマ「サッカー選手に求められるフィジカル的資質とは」

現代サッカーでは、インテンシティ(強度)が高い環境の中でクオリティ(精度)を発揮することが求められる。サッカー選手には技術や戦術理解力だけでなく、スピードやパワーが不可欠となり、フィジカル要素の重要性はますます高まっている。もちろん、技術、戦術、そしてフィジカルを切り離して考えることはできない。日々のトレーニングでは、それらを常に融合させながらのプランニングが重要であると説明された。

また、フィジカル向上を目指す歴史や、フィジカル要素を分離した取組み、ゲームでのフィジカルデータなど、フィジカル強化に向けたアプローチについても伝えられ、今後、選手には常にアクティブでハードワークを惜しまないプレーを求めることが重要であるとし、また、それを支える指導者の役割についても言及された。さらに、海外で活躍する選手の事例を挙げて、ほとんどの選手がフィジカルの重要性を実感していることが述べられ、日本代表の遠藤航選手も、ボールを奪うことを続けて挑戦し、試行錯誤を重ねた結果「デュエル王」と称されるまでに成長したことが紹介された。

サッカーのさらなる進化に伴い、フィジカル要素もより高い水準で要求されるようになる。フィジカルの重要性については、『Japan's Way』にも掲載されているため、ぜひ参考にしてほしいと伝えられた。

### 仲野 浩 (JFA コーチ女子関東チーフ/東京 FA チューター) テーマ「女子サッカーのこれからの扉を開く」

女子サッカーの裾野を広げることは、将来的な代表強化に繋がる最も重要な基盤の一つで、年齢を重ねるにつれ男子以上にサッカーから離れてしまう選手が多い現状は深刻である。強豪国を見渡すとグラスルーツなくして代表が強くなることはなく、JFAは「マジカルフィールド」等の活動で、ボールに触れ合う少女を増やす取組みを行っていることが紹介された。

指導者養成の女性限定コースなど女子選手や指導者が生涯に携われるコミュニティづくりが不可欠。WCでのベスト8敗退は悔しい結果だが、直近のU-20WCでの2大会連続準優勝など、日本女子サッカーの未来に明るい兆しを見た。「強くて、フェアな日本代表」を目指す上で、「日常を世界基準にしていく」という考えが重要。日常から「ゴールのあるTR」「ゲームの中から学ぶ(TRの最後にゲームを行う)」といった工夫で、世界基準のスキルを身につける必要があることが話された。

女子トレンセンでの取組みは、まさにその方向性を示していると言える。指導する選手への心構えを大事にして、指導者一人ひとりの想いを積み重ね、日本が再び世界一になれると信じていますと締めくくられた。

**12月26日(木)〜29日(日)**  
**JFA 第48回全日本U-12サッカー選手権大会**  
**優勝・東京ヴェルディジュニア**  
JFA 第48回全日本U-12サッカー選手権大会は12月28日に鹿児島県鹿児島市の白波スタジアムで決勝が行われ、ハテシSCを延長の末、3-2で下して東京ヴェルディジュニアが17年ぶりに小学生年代の頂上に輝きました。試合は、東京ヴェルディジュニアのプレスでボールを奪い、ゴール前でシュートを放つなど決定機を作っても、バティの固い守備に阻まれて前半はスコアレスで折り返しました。後半に入ると試合が動き、22分に右サイドからのクロスでボールがF.P.田中誠が詰めてバティが先制。東京Vも28分にPKを獲得しF.P.山本大翔選手が同点にすると、その2分後にはF.P.山本崇翔がカフターからシュートを決め逆転しました。しかし、後半のアディショナルタイムにもF.P.浅利連生がPKを決め、試合は2-2のまま延長戦に突入。決勝点は決まったのは43分、F.P.岡崎晋がシュートを出し山本崇翔がパスを引き出しそのままシュートを決めこれが決勝点となりました。東京Vは17年ぶり4度目(前身の読売SCを含む)、8人制になってからは初の優勝に輝きました。

**TOPICS**  
**11月25日(月)〜29日(金)**  
**第8回全日本大学サッカー新人戦**  
**優勝・国士館大学**  
11月29日に全日本大学サッカー新人戦の決勝戦がAGFフィールドで行われ、国士館大が近畿大を3-1で下し、初優勝を飾りました。前半32分、MF井野佑俊が蹴ったFKをDF工藤珠波が頭で合わせて先制。続く36分には、CKのこぼれ球をMF小林侑志郎が蹴り込んで、リードを2点に広げました。後半に入るとすぐの46分、近畿大はMF石井陽大の折り返しを、投入されたばかりのFW岡崎慎が反転シュートで1点差に詰め寄りました。しかし、51分に国士館大はMF後藤響のクロスで、FW本間凌が合わせて3-1と突き放しました。この試合が終了し、国士館大が今年度の1、2年生で構成するチームで戦う新人戦の王者に輝きました。  
**12月7日(土)〜28日(土)**  
**MCSスポーツ presents**  
**2024年度第73回全日本大学サッカー選手権大会**  
**優勝・東洋大学**  
全日本大学サッカー選手権(インカレ)決勝が12月28日に栃木県グリーンスタジアムで行われ、東洋大がMF新井悠太のPK弾を守り抜き、新潟医療福祉大を1-0で下して初優勝を飾りました。インカレでの初決勝進出を決めた東洋大は、前半39分、DF福村隼翔のロングフットで抜け出したFW村上力己がGKと1対1となり、村上がGK桃井瑠がかわそうとしたところを、GK桃井がゴールを射つまいPKに、MF新井悠太がこのPKを真ん中に蹴り込み、東洋大が先制しました。東洋大は冷静にパスを繋ぎながら試合を進め、追加点が奪うことはできなかったものの、GK前田由志を中心に完封勝利を達成し、1966年の創部以来初となる日本に輝きました。





# サッカー LIFE



## ～サッカーファミリーのサッカーライフを紹介～

たくさんの人に支えられている TOKYO FOOTBALL  
どのような人がどのように関わっているのか知ってもらいたいそんな思いから生まれました

**記録員／関東大学サッカー連盟 2025 年度幹事長 廣島一平さん**

### お仕事 Q&A

#### 記録業務はどんな仕事？

メンバー表を作成し審判やオフィシャルの方に配布。試合中はスタツを記録し公式記録作成をして、試合後にチーム、メディアや一般の方にお知らせをするのが主な業務です。

#### 関東学連に入った経緯は？

マネージャー志望で山梨学院大学のサッカー部に入部しました。1年時はマネージャーをしていて、あるサッカー記事で関東大学選抜にマネージャーがいることを知り、サッカー部の岩淵弘幹監督に相談して、2年時に関東学連に加入しました。

#### 記録を取る際に使っているツールは？

パソコン、ストップウォッチです。私は iPad でメモを取り、エクセルに記録を打ち込んでいますが、紙で記録を取る方もいます。

#### 記録を取る際に気を付けているポイントは？

試合はライブ配信や映像撮影もしていますが、もちろん映像に映らない部分もあるのでリアルタイムでボールの行方を追っています。中でもユニフォームの色や背番号などを口に出し得点経過を追うようにしています。特に大舞台の試合前には各チームの布陣や FW の利き足などを覚えるようにしています。

#### 過去に記録ミスが発生したことは？

##### その時には、どういった対応をしましたか？

ゴールをした選手にフォーカスをしてしまったことでアシスト選手を間違えた経験があります。試合記録作成後、チームからの指摘を映像で確認し、改めて審判とマッチコミッショナーに連絡を入れ、了承を得てから訂正し、各方面に再リリースをしました。

#### 記録業務で難しさを感じる点は？

現在は映像配信されていますが、関東学連の記録に関わり始めた頃はアシストの前につながるプレーがドリブルなのかパスなのか、得点経過を記録することの難しさを感じていました。初めて記録業務をした試合では 10 得点も入ったこともあり得点経過や交代選手が追えず、てんやわんやしてしまった記憶があります。そして公式記録の作成が試合終了 1 時間後になってしまったことがありました。

#### 記録業務を通じて成長した点は？

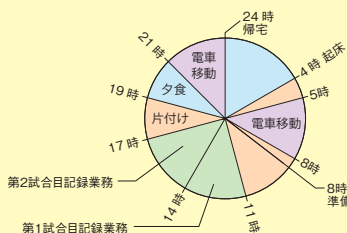
もちろんサッカーが好きなのですが、以前までは試合を 90 分見るのが辛いタイプでした (笑)。始めてから、サッカーを違う視点で見られるようになったことで新たな面白さに気付きました。記録担当者は公式記録に名が記されることもあり責任は重いものがあります。正確な情報を伝えなければいけないという責任を感じています。

#### 記録業務はサッカーやフットサル経験がない人でも出来る？

学連の女性スタッフでサッカー経験のない方もいます。サッカーは好きだけど最初はオフサイド等の細かいルールを知るところから始めて、自分の努力次第で記録業務は出来ると思います。



#### 1日のスケジュール (記録業務担当) は？



### プライベート Q&A

#### 大学では何を？

山梨学院大学スポーツ科学部スポーツ科学科に在籍しています。スポーツ経営学やマネジメント、栄養学、教育論、コーチング論などを履修しています。

#### 現在、保有している資格は？

自動車運転免許ぐらいです (笑)。エクセルを使っているので、パソコン関係の検定を取るなどスキルアップをしたいと考えています。

#### 休日の過ごし方は？

プライベートでリーグを見に行く機会も多く、試合前の空き時間を利用してパソコンで資料作りをしていますね。



#### 趣味は？

ドライブや、電車に乗ることも好きです。山梨から車で試合に向かう際はいつもドライブを楽しんでいて、去年の夏には普通列車で京都まで行きました。途中、寄り道をして、ご当地の名物料理を食べ、名所を周るなどをしました。楽しかったですね。

#### プライベートで試合を見に行った時でも記録業務のことを意識する？

ストップウォッチを押してしまいますね。癖になっています (笑)。

#### ご自身にとってサッカーとは。

まだ 20 年ちょっとしか人生を歩んでいないので恐縮なのですが、僕にとってサッカーは、人生そのものです。小学 1 年から始め、色々な方とお会いしてきました。高校卒業後に一度、サッカーを離れることも考えましたが、両親にも「(サッカーから) 離れない方がいい」と助言を受け、大学で別の形でサッカーに関わり、多くの方との出会い、縁がありました。僕の中では人生を体現している形のような気がしています。

#### 将来の夢は？

サッカー界に就職し、少しでも貢献できる存在になりたいと思っています。

### メッセージ

主役はもちろん選手で、記録業務は縁の下の力持ち的な存在です。正直、高校生の頃は、裏方の存在なければ選手が輝けることが分かりませんでした。チームや選手を輝かせるためには色々な支え方があることを知っていただけたら嬉しいです。



## <学生の皆さん> 関東大学サッカー連盟の 仲間になりませんか？



サッカーを支える仕事を私たちとしてみませんか？

サッカーを盛り上げたい、支えたいという方を募集しています！

サッカー未経験者、ルールを知らないという方でも大丈夫です。大会運営、プログラム作成、試合に携わっていただく方の手配などを行っております。

興味がある方は、

『一般財団法人 関東大学サッカー連盟 お問い合わせ』にご連絡ください！

<https://www.jufa-kanto.jp/>

QRコードはコチラ→





# From the Association

技術委員会から **暑い夏☀だからこそ**

**楽しくサッカーを！**

選手・応援者・運営者

**インクルーシブなコミュニティ**

みんなで

スマイル・ピッチ

多種目との出会い  
ダンス  
スケートボード  
クライミング…



## サッカーで築くウェルビーイング 個人や社会の良い状態

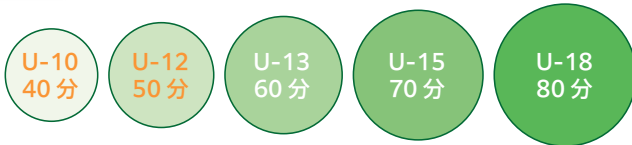
オフ期間を創出しよう  
家族との触れ合い  
オフ期に身体的成長するかな



室内フットサル  
楽しもう

提案

トレーニング持続時間



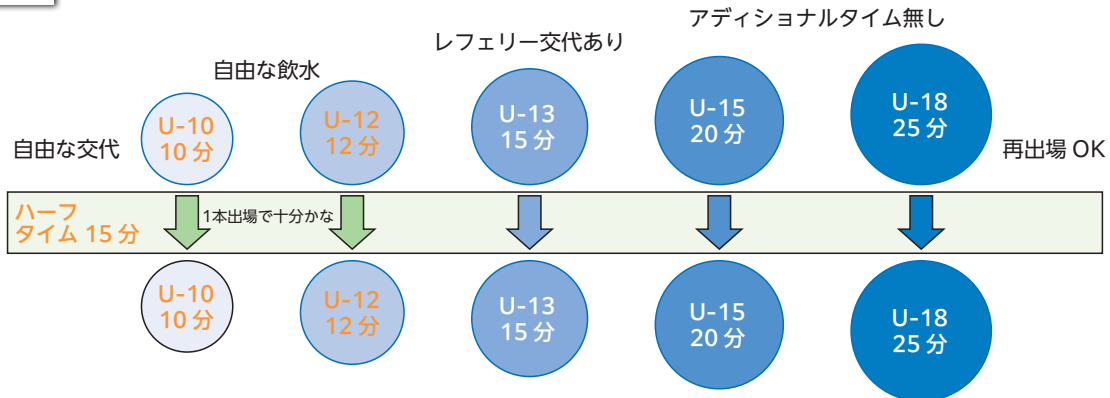
提案

トレーニング開始終了時間



提案

トレーニングマッチ / フェスティバル・レギュレーション 試合時間 / 1人当たり



提案

暑熱下でのサッカー活動安全宣言をしましょう



WBGT 測定値 31 以上は  
**活動しません！**



あと1本、もう1回…  
**これをしない！**

**雷雨豪雨に**  
最大限の  
注意をします！



WBGT31 以上が想定される  
時間帯 / 場所での活動は  
**プランニングしません！**



TOKYO Soccer Safety





## 連盟の活動について

東京都少年サッカー連盟には、801チーム、39,871人の選手が登録しており(2024年10月末時点)、多くのスポンサーにサポートいただきながら、リーグ戦や少年連盟主催の各学年の大会を開催しています。

年間を通してのリーグ戦では、1・2・3部で構成されるトップリーグ60チームに、1~16の各ブロックリーグ参加チームを加えた計712チームが数多くの試合を重ね、選手の育成につなげています。

年度初めに開催した「ハトマーク・フェアプレーカップU-10大会」ではアーカイブによる映像配信を行いました。少年連盟のホームページ上に開設した特設サイトには1万6,000件を超えるアクセスがあり、関心の高さを実感しています。

また「JFA 第48回 全日本U-12 サッカー選手権大会」では、東京都大会を勝ち抜いた東京ヴェルディジュニアが都内677チームの代表として全国大会に出場し、見事優勝、日本一の栄冠に輝きました。

育成部門では、東京都選抜U-12男子、女子ともに海外遠征を行いました。男子選抜は、インドネシアで開催されたガルーダカップに2チームが参加し、見事優勝と第3位を掴み取りました。大会には、フィジカル、テクニックに優れたチームが数多く参加しておりアジアのレベルの高さを痛感しましたが、慣れない環境のもと海外チームとの真剣勝負を通じて、選手だけでなく指導者も成長し素晴らしい経験となりました。女子選抜は、韓国遠征を行い、一つ上のカテゴリーである中学生のチーム相手に4勝1分と負けなしで戦い抜き、選手たちにとって更なる成長のきっかけとなったと感じています。

今後も、少年連盟が掲げる「安心、安全」な事業運営を念頭に、①暑熱対策を含めたスケジュールの見直し、②人工芝グラウンドなど環境整備された試合会場の確保、③4種年代の本分である普及、育成事業を通じたサッカーファミリーの拡大、④女子選手及び女性指導者、審判員、ユース審判員の育成、⑤ウェルフェアオフィサー講習会等を通じた暴言、暴力の根絶への取組など、様々な課題を克服しながら、少年サッカーの進歩と更なる育成に努めて参ります。

オフィシャルサイト

<http://www.u12tfa.jp/>



# 東京都少年サッカー連盟

崎間 猛



インドネシアガルーダカップ(男子)



韓国遠征(女子)

## サッカーを楽しめる環境を

今年度、中体連の大会では、公立学校の活躍が目立った。近年は、私立学校がベスト4を占める割合が高く、公立学校が名前を連ねることもあったがわずか1校程度だった。だが、今年度は、総合体育大会・新人大会と合わせて4校が名乗りを上げた。私立学校のクオリティの高さに圧倒はされたものの、公立学校の特性を考えると素晴らしい結果を残してくれた。また、総合体育大会でベスト4に進出した東村山市立東村山第二中学校と練馬区立石神井中学校は、準決勝を終えた時点でイエローカードが1枚も出ていなく、フェアプレーの精神を貫いてくれたことも大いに評価したい。

さて、今年度から「部活動地域展開検討プロジェクト」が東京FAで発足された。これからの東京都における部活動をどのようにしていくべきなのか、東京FAとして何が出来るのかを検討していく会である。JFAから藤原氏、渋谷区スポーツ協会から久保田氏を招き、これまでの流れとこれからの動き、そして現在進行形で行われている地域展開について学びを深めている。まだ私たちに何が出来るのかは明確にはない。だが、「東京都の中学生たちの誰もがサッカーを楽しめる環境を作りたい」という思いは強くなった。

公立学校の底力を見せてもらったことで、サッカーの可能性をさらに強く感じる事ができた。同時に、私たちにもまだやれることがあるのではないかと感じた。

自分のやりたい環境でサッカーができる。部活動、地域クラブ、クラブユースなど選手たちのライフスタイルに合わせて選択できる環境、そしてサッカーをすることで自然と笑顔になれる環境をこの東京に作っていききたい。中体連サッカー専門部はそのために尽力していききたい。

オフィシャルサイト

<https://www.soccer-tokyocr.jp/>



# 東京都中学校体育連盟 サッカー専門部

部長

艸川 幸治



総合体育大会 優勝：駒場東邦中学校



総合体育大会の様子



「連盟ニュース」では各連盟の大会結果・取り組みなどを4連盟ずつ紹介します。

# 東京都女子ユースフットサルリーグ

「U18女子フットサル」は、現在JFA主催の全国大会が開催されておらず、競技人口や参加チームを増やすことが長年の課題となっているカテゴリーです。そこで、2023年度より「東京都女子ユースフットサルリーグ」を設立しました。これまで、この世代の選手たちは、民間が運営するワンデー大会や社会人リーグを主な活動の場としていましたが、待望の同世代と公式戦が行えるリーグ戦となりました。

昨年度は8チーム、今年度は9チームが参加し、9月から翌年の6月までを1シーズンとする1.5回戦（前期：9チーム総当たり戦、後期：上位リーグと下位リーグ）のリーグ戦を実施しています。参加チームの大半は高校のフットサル部であり、また、サッカーチームでもある十文字中学と十文字高校も中学年代からフットサルに取り組んでいるため、フットサル特有の戦術やセッププレーなど「フットサルらしい」プレーが多く見られるのが、このリーグの特徴です。

また、昨年度のリーグに参加していた選手の中には、現在関東女子フットサルリーグや都県リーグで活躍している選手もあり、今後も次世代の女子フットサル界を担う選手たちの成長の場となることが期待されています。

東京都では、このようにU18女子のリーグを開催できていますが、全国的に見ると高校年代でフットサルをプレーする女子チームはまだ少なく、「同世代と試合がしたい」という悩みを抱えている地方のチームも少なくありません。今後、東京都女子ユースフットサルリーグを中心に、高校年代でフットサルをプレーする女子チームが全国的に増え、女子フットサル界全体がさらに盛り上がることを願っています。

オフィシャルサイト

<https://tokyo-futsal.or.jp/>



# 東京都フットサル連盟

中村 柊斗



2023年度より東京都女子ユースフットサルリーグを設立。

## 連盟活動紹介及び2024年度都民体育大会、区市町サッカー選手権大会結果

東京都地区サッカー連盟は、各区・市・町サッカー連盟(協会)と東京都サッカー協会とを結ぶ唯一のパイプ役として、大会の主催・主管、情報交換などの連携を密にすると共に、将来の組織化を念頭に置きつつ、サッカーの普及に努力しています。

2024年度は第77回都民体育大会(2025年度以降東京都スポーツ大会へ変更)サッカー競技を4月28日～6月2日に駒沢第2球技場にて東京都・東京都スポーツ協会主催、東京都サッカー協会主管で33地区が参加し実施しました。

- 優勝 : 府中市
- 準優勝 : 千代田区
- 3位 : 港区
- 4位 : 日野市

また、第18回区市町サッカー選手権大会を6月30日～8月4日に駒沢第2球技場にて東京都サッカー協会主催、東京都地区サッカー連盟主管で27チーム参加で行いました。

- 優勝 : 四谷FFC(府中市)
- 準優勝 : TAPAN (足立区)
- 3位 : illmassive(千代田区)
- 4位 : FC GROOVY(三鷹市)

今後も東京都サッカー協会と各地域の情報交換と相互理解の促進に努めていきます。

オフィシャルサイト <https://www.tokyoafa.or.jp/category/league/chiku.html>



## 東京都地区サッカー連盟

委員長  
児玉 健生



都民大会1位府中市

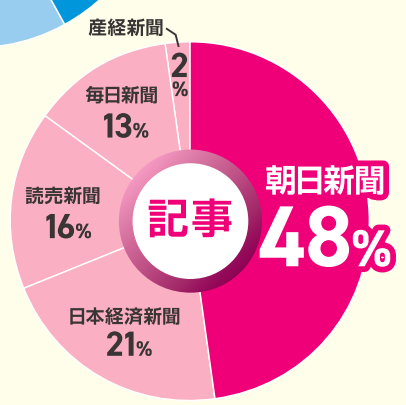
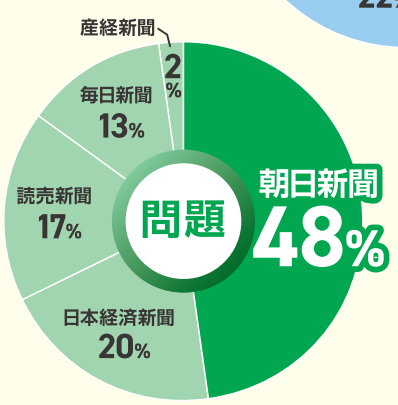
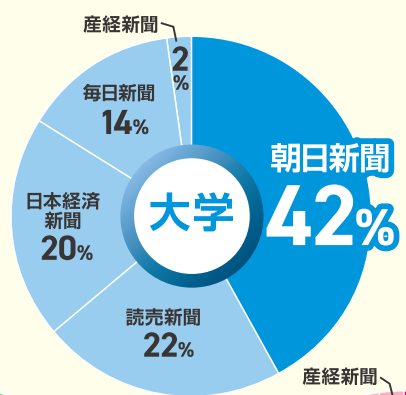


都民大会旗2024

# 朝日新聞は 2024年度も 大学入試出題数 No.1



## 全国紙の2024年度大学入試出題実績



※大学通信調べ(2024年5月31日現在)。全国の大学にアンケート調査。対象は読売新聞(読売新聞オンライン)、朝日新聞(朝日新聞デジタル)、毎日新聞(毎日新聞デジタル)、日本経済新聞(日経電子版)、産経新聞(産経ニュース)、回答数777。

